



弘前大学男女共同参画推進室

さんかくつうしん

~News Letter~ vol.5

- 白神の植物標本作成講座・・・・・・・・・・1
- セミナー開催のお知らせ・・・・・・・・・・1
- 女性研究者フォーラム報告・・・・・・・・・・1
- アンケート調査報告・・・・・・・・・・・・・2
- 第2回女性研究者インタビュー・・・・・・3
- 第3回職員のための使える制度・・・・・・4
- 第2回理工学部女子会・・・・・・・・・・・・・4
- お知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4



“Science”の面白さを伝えるために、弘前大学で開催されている理系のイベントをつなげ発信します。

まず第1回目は、世界自然遺産「白神山地」の裾野からのイベントをご紹介します。

白神の植物標本作成講座

6月18日、さわやかな風の吹く世界自然遺産“白神山地”の裾に位置する弘前大学白神自然観察園(青森県西目屋村)で、植物標本の作成講座を開催しました。この講座は「つがるネッサンス!地域でつなぐ女性人才」の事業のひとつである理科離れ対策の一環として、ラボ・バスプロジェクト(教育力向上プロジェクト)と連携し、白神自然環境研究所、教育学部と合同で開催したものです。講師は白神自然環境研究所の山岸洋貴先生でした。

また、教育力向上の目的からイベント補助者を募集し、理科教師を目指す理工学部・農学生命科学部の学生4名が理科実習における指導技術を学びました。



山岸先生から植物標本の歴史や植物採取時の注意点等の説明後、実際に生育している植物を観察しながら分類ごとに採取のポイントを学びました。

No.1



植物の特徴がわかるように、立体のものを平面に貼り付けるための作業。グループごとに木本(もほん)、草本(そうほん)、シダの押さえつけを体験しました。

No.2



乾燥には2日程度かかるため、あらかじめ山岸先生とイベント補助者が準備していた植物体を使い、台紙に貼り付けました。

参加者のみなさんは、出来上がった作品を記念として持ち帰りました。



No.3

セミナー開催のお知らせ

「研究っておもしろい!」(仮題)

講師:日本女子大学名誉教授 小館 香椎子

(科学技術振興機構男女共同参画アドバイザー委員
工学博士)

2011年12月7日(水)13:30~15:00

弘前大学 コラボ弘大 8階 八甲田ホール

今回のセミナーでは、物理学者として情報フォトンクス分野でご活躍され、また多くの研究者を育ててこられた小館香椎子先生をお迎えします。

研究と結婚・出産・子育てを両立させてきた先生ご自身のエピソードも交えながら、「研究のおもしろさ」「教育の醍醐味」をお話いただけます。

気軽に質問や発言ができるトークタイムもあります。

文系・理系、男女を問わず、学生・教職員の皆さん、一度じっくり「研究」「教育」について考え、語り合ってみませんか?

- ✿ どなたでもお気軽にご参加ください
- ✿ 参加無料
- ✿ 無料託児あり(要予約)

女性研究者フォーラム

スキンケア&身だしなみ 「メイクアップ講座」を開催しました!

講師:資生堂
ビューティーコンサルタント
小田桐 亜沙子さん

日時:2011年8月9日(火)
1回目 11:00~12:00
2回目 13:00~14:00

参加人数:1回目・2回目の合計96名

オープンキャンパス
同時開催



オープンキャンパスに訪れた女子高校生だけでなく、弘前大学の女子学生や女性教員の参加も多数ありました。講師の小田桐さんから、好感の持てるメイクアップとそれを支える健康な肌を保つスキンケアについて、実演を交えた説明がありました。就職活動にも使える、社会人のたしなみとしての「上品かつ目力のあるメイク」の実演のために、人文学部4年生の女子学生2名がメイクアップモデルとして協力してくれました。



平成21年度大学院生アンケート調査と「つがるネッサンス！」

「つがるネッサンス！」に活かされた大学院生のニーズ調査

平成22年度から展開中の科学技術振興調整費女性研究者支援モデル育成事業「つがるネッサンス!地域でつなぐ女性人才」この提案には、平成21年度に大学院生を対象として実施したアンケート調査の結果が活かされているのをご存じでしたか? ご協力いただいた院生の方々に感謝するとともに、その一端をここでご紹介しましょう。

実施した調査について

大学院生が、性別や年齢等にかかわらず、研究活動を活発に行うための支援ニーズを知るために平成21年度に実施したのは、「研究継続と活発化のための男女共同参画推進に関する調査」です。配布したアンケートは594部で、350部の回答がありました(回収率58.9%)。回答の内訳は、修士課程が74%、博士前期課程が11.5%、博士後期課程が12%でした。専門分野別では、回答者の85.7%が「理系」大学院生でした。性別では、男性からの回答が67.9%、女性が31.8%で、大学院生全体の男女比率からみると、女性の回答率が高いといえます。

幅広い年齢層の人々が学んでいる

大学院の学生として幅広い年齢層の方々が学んでおり、学部卒業後に社会人経験をもつ学生も全体の34.1%ありました。全体の52.1%が25歳未満で、25~29歳が22.1%、30~34歳が11.5%、35歳以上12.1%でした。回答者の20%近くが有配偶者で、全体の14%が子どもを持ち、病後児保育等の必要も指摘されていることから、学びと育児を両立できる環境の整備も必要なことがわかります。

「専門を深めたい」が進学理由の第一位

大学院への進学理由では、修士課程・博士前期課程への進学理由で最も多かったのが「専門領域(テーマ)をより深めたい」で、全体の86.6%が肯定的な回答でした。博士課程後期への進学理由では、「専門領域(テーマ)をより深めたい」と「研究者になりたい」という2つの理由が明確に現れていました。

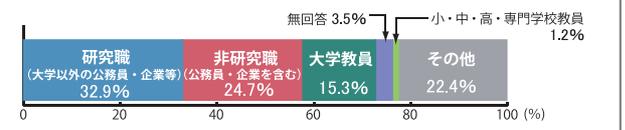
修士課程は非研究職希望 博士課程は大学以外の研究職が第一位

大学院修了後の進路についてみると、修士課程・博士前期課程では、非研究職が42.0%、研究職が30.9%、学校教員11.8%、博士課程(後期)への進学希望者は10.3%です(図1)。博士課程・博士後期課程では、研究者の道を希望する傾向がより強いのですが、大学以外の公務員や企業等での研究職の希望者が、大学教員を上回っています。非研究職を希望する回答が24%あったことも特徴的です(図2)。

図1 修士課程・博士課程前期終了後の希望進路 (n=262)

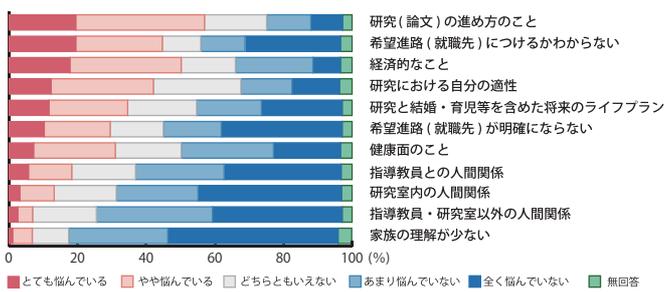


図2 博士課程・博士課程後期終了後の希望進路 (n=66)



研究生活の悩みと必要な支援は?

図3 研究生活の悩み等 (n=349)

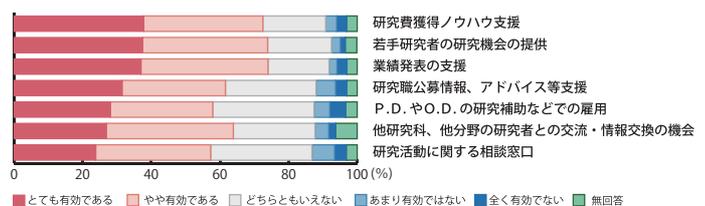


現在の研究生活で有効と思われる支援については、経済面の支援、進路・就職相談窓口の設置、健康面の支援などの順に多くの回答がありました。大学の支援として有効と考えられているのは、研究費獲得ノウハウ支援、若手研究者の研究機会の提供、業績発表の支援などでした。(図4)

研究生活についても聞きました。研究に意欲を持って取り組んでいる学生が60%を超え、研究の上では指導教員や研究室の先輩や同僚が頼りにされる傾向があります。研究生活の悩み等で、「研究(論文)の進め方」が最も多く、「経済的なこと」や進路への不安などが続きます。指導教員との関係や研究室内の人間関係などの悩みも15~19%あることから、研究室以外の関係作りを含めた支援を検討する必要があるといえます。

(図3)

図4 研究活動に有効と思われる大学の支援 (n=349)



「つがるネッサンス！」に反映されたことは?

弘前大学では、すでに学内保育園をもち、「弘前大学特別研究員制度」や独自の奨学金制度などを進めています。それに加えて「つがるネッサンス!」では、研究スキルアップができる支援、学部や世代を超えたネットワークづくりを考えました。アンケートで希望があった、女性用トイレや更衣室などの環境整備等についても、担当理事に要望を伝え、検討を要請しています。今後は「つがるネッサンス!」ホームページに、学内外の支援制度や助成金情報等がまとめて得られるページも開く予定です。どうぞご活用ください。

めざすは「プラナリアの何でも屋」

「生命にかかわる研究」を志して

中学生のころ、新聞の科学欄を読んで「生命にかかわる研究で、世のため人のためになりたい」という思いを抱いたのが研究の道に進むきっかけでした。その志が、現在の研究の源になっていると思います。

弘前大学理学部(当時)の卒業論文のテーマは「魚の large pit organ (注:魚の側線にあり、水流や化学的な刺激を感受する触覚器官)、動物生理学でした。卒業後の7年間も魚の研究を続けたのですが、指導教授の退官を機に、後に弘前大学の学長も務められた手代木 渉先生のもとで、プラナリアの研究を始めました。

プラナリアは再生力が強い生き物で、二つに切ると二匹のプラナリア、三つに切ると三匹のプラナリアになります。今、再生医療の分野で注目を集めているiPS細胞(注:人工多能性幹細胞)は人工のものですが、プラナリアの体の中には、それに相当する新生細胞が、すでにあるのです。生殖細胞にも、筋細胞にも、脳にでも何にでもなれる万能細胞です。

研究は、どこまで行っても終わりがありません



リュウキュウナミウズムシOH株

(沖縄由来の1匹を弘前で殖やして株化したクローンプラナリアなので、石田によりOH株と名付けられ、実験動物として他大学でも使用されている)

とはいえ、プラナリアの再生能力については比較的知られていても、それ以外のことはあまり研究されていません。

手代木先生と一緒に書いた『プラナリアの生物学』(共立出版・1987年)は、プラナリアの全貌を網羅した総合的専門書で、言わば「プラナリアの何でも屋」をめざしたものです。

日本には二十数種の淡水棲プラナリアがいて、北海道には13種類、青森県には7種類、秋田県や岩手県には4種類生息しています。また、北海道と青森県にしかない白いプラナリアもいますし、海には海産プラナリアも生息しています。そういった生息分布や生態、再生のメカニズムにしても、それぞれ種類によって、いろいろと違うので、まだ知られていない、突き止めなければならない問題がまだまだたくさんあるのです。

プラナリアに関する国際シンポジウムが大体3年毎に開催されていて、これまでいろいろな国に出かけて発表し、各国の研究者と交流できたのはとても良い思い出になっております。日本では初めてとなるこのシンポジウム(第6回国際渦虫類生物学シンポジウム)が、1990年に弘前大学で開催されました。手代木先生が組織委員長で、私が事務局長を務めました。私はこの時も発表しましたので、発表準備をしながらの任務遂行は本当に大変でした(18カ国から約150名の参加)。でも、多数の先生方のご協力のもと、無事に成功裡に終了し、大変貴重な経験を積むことができました。



意思があるなら躊躇なく結婚・子育てを

私の研究分野である発生生物学的見地に立てば、生き物は子孫を残すようにできているのですから、女性研究者も結婚して子育てをした方が良いと思います。子供や孫がいると楽しいですよ。そうした意思があるのなら、躊躇なく、なるべく早く結婚して、なるべく早く子供を産んで、若くて体力があるうちに子育てをしたらいいんじゃないでしょうか。

理系に限らず、やりたいことを早く見つけて、研究を続けてほしいです。好きな道なら頑張れますから。(このインタビューは平成23年2月7日に行いました。その後、お姑さんはめでたく101歳のお誕生日を迎えられました)

このコーナーでは、弘前大学で活躍する女性研究者を紹介します。

農学生命科学部 生物学科 教授
石田 幸子
Sachiko ISHIDA



「来年退職を迎えます。これまでできなかった、映画鑑賞、読書、お茶、お花、スポーツなど、やってみたいことがたくさんあります」

秋田県八森町(現在は八峰町)出身

人生には「ドラマ」があるんです

23歳の時結婚して、26歳までに娘を二人出産しました。赤ちゃんのうちから「りんごベビーホーム」という保育園に預けて、すぐ仕事に復帰しました。子どもを大学に出勤するときに預けて、帰りは遅くなるので、お姑さんにお迎えを頼みました。お姑さんがいてくれたから仕事を続けられたようなものです。

実は10年で離婚したのですが、お姑さんは、息子とではなく、私たちと暮らすと言って、それからずっと一緒にいます。10年前に骨折してから施設でお世話になっているものの、今100歳で元気です。お姑さんはできた人で、私たちは仲が良く、ケンカはほとんどしたことがありません。

娘たちは、それぞれ良い相手を見つけて若いうちに結婚しました。その後私は、ますます自分の仕事に打ち込めるようになり、今はワークオンリーの生活を楽しんでいます。

研究者にテクニカルサポーターを

女性研究者が子育てと仕事を両立させていくために、実現すればいいと思うことはいくつかあります。

まず一つは、育児休暇などを取りやすくするために、休暇期間中、代わりに講義や学生実験をやってくださる方がいれば良いですね。たとえば私を例にすると、集中講義でもいいので、私の代わりに発生生物学を担当してくださる方がいれば助かるわけです。女性研究者が気軽に長期休暇をとれるようなシステムがあれば役立つと思います。

それから、子育て期間は、早い時間に帰宅できるようにしてもらえれば良いと思います。会議が夕方の5時40分から始まるというのでは、育児中の人は困りますよね。

さらに、事務的なサポートや研究のテクニカルサポートをしてくれる人がいれば大いに助かります。講義で、多人数の小テスト提出状況を毎回チェックしたり、事務的な書類を作成したり、研究で使う切片を作ったり、実験器具を洗ったり…何から何まで一人でやらなければならないので大変です。テクニカルサポートをしてくれる人は、海外なら大学のお金で雇用されていて、ずいぶんたくさんいらっしゃいます。

連載第3回

もっと知りたい！
職員のための使える制度

勤務時間をずらしたい！

— 育児又は介護に伴う早出遅出勤務制度 —

弘大職員の基本的な勤務時間は、8時30分から17時まで（12時15分から13時までは休憩）となっています。しかし、お子さんを幼稚園に送ってから出勤したいので勤務時間を9時から17時30分にしたい、または、ご家族の介護に当たるため、水曜日は勤務時間を8時から16時半にしたいという場合もあるのではないのでしょうか。

この制度は、職員が育児又は介護を行うために、勤務時間の長さはそのままとして、始業時刻を早くし（午前7時以後）終業時刻も早める、もしくは、遅出して終業時刻も遅くする（午後10時以前）という制度です。例えば、未就学児童をお持ちの場合や、「放課後児童クラブ」へお子さんを迎えに行く職員が利用できます。その他、業務に支障がないことが条件とされており、事前申請が必要です。詳しくは規程をご覧ください。

規程の見方：「弘前大学HP」→「教職員の方へ」→「弘前大学規則集」→「06.人事関係」→「検索」に「規程第6号」と入力してください。

Information 1 学会開催時の託児情報等支援 始まります！



詳細は、近日ウェブサイトで公開します。

★ 気になる方はココをチェック ★
<http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/tsuga-ru/>

Information 2 教職員のための
制度・手続き情報ナビ (仮称)

～子育て・介護・その他身近な事に関する制度・手続情報～

男女共同参画推進室では、教職員のワーク・ライフ・バランス実現へ向けて、子育てや介護等に利用できる制度や手続等の情報をウェブサイトへ掲載する準備をしています。

学内のほか、県や市、地域の情報がいっぱいです。11月開設予定です。

どうぞご期待ください。



Information 3 「論文投稿費助成事業」及び「英文校閲費助成事業」廃止のお知らせ

平成22年度に実施していた「論文投稿費補助事業」および「英文校閲費補助事業」につきましては、科学技術振興調整費の見直しに伴い廃止いたします。昨年度の実施期間が短かったにもかかわらず評判がよく、本年度の再開を心待ちにしていた方々もおられることと思います。廃止の周知が遅くなり、ご迷惑をおかけした方々には申し訳ございませんでした。

平成23年度の「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」は文部科学省の措置により科学技術人材育成費として継続しております。今後とも、よろしくお願い致します。

第2回理工学部女子会

数学好きが集まる数理科学科

数学は現代の技術文明の基礎



6月6日に理工学研究科で「女子学生座談会」が開催されました。各学科持ち回りで所属する女子学生から学科の魅力聞き、その魅力を最大限生かしたHP作成や広報活動を行い、「理系女子」を増やすことを目的としています。今回は数理科学科に所属する女子学生に集まってもらいました。

数理科学科はその名のとおりに「数学」を学ぶ学科です。集まってもらった女子学生は皆、数学が好きで、大学4年間を好きな数学の勉強をしたいから、との理由で数理科学科を志望していました。数理科学科では、色々な数学の分野を学べ、高校とは違った数学の世界を知ることができます。また、パソコンを使用し、プログラミングされた数式に数を代入することで図形を描くなど、一般的な「数学」のイメージとは違う授業も行っています。

理系には英語が苦手な人が多いのですが、予想に反して、多くの女子学生は英語が得意でした。英語の長文を読むのが好き、比較的楽に英単語を暗記できる、受験もさほど英語で苦労しなかった、とのことでした。英文に対して抵抗がないということは、英語が苦手な私にとっては羨ましい限りです。社会人になっても英語に接する機会はあるので、数学だけでなく英語の能力もぜひ生かして欲しいです。

印象深かったのは、自分を育ててくれた地域に貢献したいので公務員になりたい、という一言でした。「国家公務員が国民全体の奉仕者であってその職務は国民から負託された公務である」というフレーズを久々に思い出しました。青森のことを考え、公務員になり、どうにかしたいと思う学生が多くいることに感謝したいです。

(理工学研究科 藤寄里美)

★ 気になる!! 理工学部女子会はココにアクセス ★
<http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/mirai/list.html>